森記念財団都市戦略研究所：連続シンポジウム 第３回

都市の魅力

持続可能で魅力的な国土形成を目指して

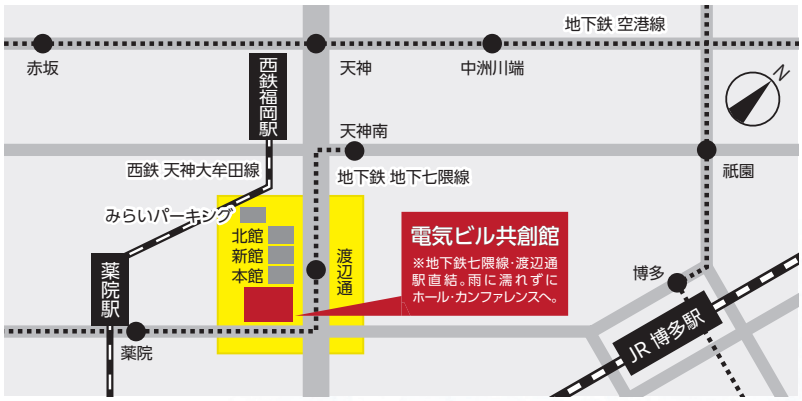
参加費 無料
定員100名
要申込、先着順

日時 2月24日（金）

13:30-15:30（13:00開場）

会場 電気ビル共創館 3F 大会議室

福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号



● 登壇者

明治大学名誉教授
市川 宏雄

九州経済調査協会
事業開発部長
岡野 秀之

九州大学大学院教授
黒瀬 武史

参加申し込み ▶ https://forms.gle/E9kSo4HURYYKeAUn9

お問い合わせ ▶ iusall@mori-m-foundation.or.jp

※会場ではマスクの着用をお願いいたします。会場でのソーシャルディスタンスの確保などにご協力をお願いいたします。新型コロナウィルス感染症の感染拡大状況によっては完全オンライン開催に変更になる場合もございます。その場合、申込時のメールアドレスに ZOOM URL をご案内いたします。

主催：森記念財団　都市戦略研究所

後援：福岡市、福岡商工会議所

● 趣旨・目的

世界の総人口が今後も増加を続けていくと予測されている一方、日本では少子高齢化および急速な人口減少が見込まれている。そのような状況に直面してもなお、日本全体が活力を保ち続けるためには、各都市がそれぞれの“特性”を活かしながら都市づくりを進め、人や企業を惹きつける「磁力」と、魅力や強みを継続的に発揮し続ける「発展性」を維持していかなければならない。そのためには、各都市が現在の都市の魅力を、歴史的・文化的・地理的なコンテクストも含めて客観的に把握した上で、次の時代に向けた都市戦略を立案し、実行にしていくことが求められる。

そこで、当連続シンポジウムの第3回は、高い総合力に加えて、市の中心部での再開発が加速している福岡市が、今後どれだけ都市の魅力を高めていけるのか。そして、どのような都市戦略で北九州・福岡大都市圏、ひいては日本全体に活力をもたらしていくべきなのかについて、福岡市で活躍されている都市の専門家とともに様々な側面から議論する。

● スケジュール

13:30-14:00
市川 宏雄
「日本の都市特性評価 2022」によって明らかになった福岡市の魅力と課題

14:00-14:30
岡野秀之・黒瀬 武史
福岡市の魅力と課題、過去・現在・未来を見据えて魅力を伸ばすための施策は何か

14:30-15:15
パネルディスカッション
課題を解決するためにすべきことは何か、各アクターの役割とは

15:15-15:30
質疑応答

● 登壇者略歴

市川 宏雄

明治大学名誉教授

東京の本郷に1947年に生まれ育つ。都立小石川高校、早稲田大学理工学部建築学科、同大学院修士課程、博士課程（都市計画）を経て、カナダ政府留学生として、カナダ都市計画の権威であるウォータールー大学大学院博士課程（都市地域計画）を修了（Ph.D.）。一級建築士でもある。

ODAのシンクタンク(財)国際開発センターなどを経て、富士総合研究所（現、みずほリサーチ&テクノロジーズ）主席研究員の後、1997年に明治大学政治経済学部教授（都市政策）。都市工学出身でありながら、政治学科で都市政策の講座を担当するという、日本では数少ない学際分野の実践者。2004年から明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科長、ならびにこの間に明治大学専門職大学院長、明治大学危機管理研究センター所長を歴任。

現在は、日本危機管理防災学会・会長、日本テレワーク学会・会長、大都市政策研究機構・理事長、日本危機管理士機構・理事長、森記念財団都市戦略研究所・業務理事、町田市・未来づくり研究所長、Steering Board Member of Future of Urban Development and Services Committee, World Economic Forum（ダボス会議）in Switzerlandなど、要職多数。

岡野 秀之

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部長

1973年横浜市生まれ、北九州市戸畑区育ち。九州大学大学院比較社会文化研究科修了。1997年財団法人九州経済調査協会入社。調査研究部研究主査、主任研究員、総務企画部次長、調査研究部長などを経て現職。専門は、地域経済論、産業配置論、地域産業政策論。

長年に渡って半導体産業を切り口に「産業クラスターと地域産業」に関する調査研究と政策立案に従事。デバイスのみならず、設計や装置、素材・部資材など、産業の裾野拡大と集積促進に寄与する産学連携や異業種連携、ベンチャー育成等の実践にも取り組む。

近年は、経済図書館BIZCOLIやデータサラダ（クラウドの地域経済データベース）、おでかけウォッチャー（スマートフォンの位置情報による観光人流分析ツール）などの新事業開発にも従事。2014年～2016年版九州経済白書の総論を担当し、2015年には『都市再構築と地方創生のデザイン』をテーマとして執筆。産業振興をベースとしながら、都市や地域のあり方についても調査研究を進める。主な著書に『シリコンアイランド九州の革新者たち』（共編著）西日本新聞社、『半導体クラスターのイノベーション～日中韓台の競争と連携』（共編著）中央経済社などがある。国土交通省九州圏広域地方計画有識者会議委員なども務める。

黒瀬 武史

九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門教授

1981年熊本県生まれ、東京大学工学部都市工学科卒業、同大学院修士課程修了。博士（工学）。日建設計都市デザイン室、東京大学大学院助教、九州大学大学院准教授を経て、2021年から教授。専門は都市デザイン・都市計画、そのなかでも工場跡地の再生、人口減少都市の再生、都心部の民有公共空間を近年の研究テーマとしている。代表的な取り組みとして、ベトナム・ホーチミン市中心部詳細計画、岩手県大槌町赤浜地区の復興計画策定、福岡市天神明治通り街づくり協議会まちづくりアドバイザーなど。

福岡県総合計画審議会委員、福岡県都市計画審議会委員、福岡地域戦略推進協議会都市創造部会アドバイザー、静岡県清水都心WF地区都市デザイン専門家会議委員、日本都市計画学会学術委員ほか。

著書に『米国のブラウンフィールド再生』（九大出版会）、『アーバンデザインセンター 開かれたまちづくりの場』（理工図書）、『アーバンデザイン講座』（彰国社）、『津波被災集落の復興検証』（萌文社）、『都市経営時代のアーバンデザイン』（学芸出版社）など。主な受賞に、日本都市計画学会論文奨励賞、日本都市計画学会年間優秀論文賞、日本建築学会優秀修士論文賞など。